

1 生活科における教育課程編成上の課題

- ・前改定において、気付きの質を高めることが示され改善の方向に向かいつつあるものの、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるかなどについて十分検討する必要がある。
- ・幼児期に育成する資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこの生活科の役割を考える必要がある。
- ・スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語、音楽、図画工作などの他教科等の関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
- ・中学年の社会科や理科等の学習内容を前倒すことにならないよう留意しつつ、育成する資質・能力や見方・考え方のつながりを検討することが必要である。

2 生活科において育成する資質・能力について

(1) 生活科の特質に応じ育まれる見方・考え方

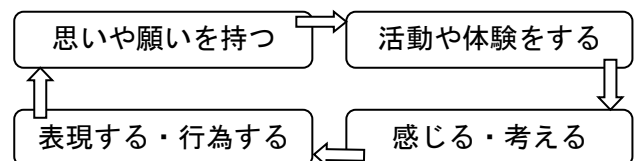
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること

(2) 生活科で育成する資質・能力

- 資質・能力の三つの柱や生活科の特性を踏まえつつ、幼児教育において育みたい資質・能力とのつながりや、小学校低学年における他教科及び中学年以降の理科、社会、総合的な学習の時間を含めた各教科等における学習との関係性を踏まえうえで整理し、具体的に考えられる内容をまとめると、以下のようなになる。
- ◆知識や技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)
 - ・具体的な活動や体験を通して獲得する自分自身、社会事象、自然事象に関する個別的な気づきや関係的な気づき
 - ・具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能
- ◆思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)
 - ・身体を通して関わり、対象に直接働きかける力
 - ・比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力
 - ・違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う力
 - ・試したり、見立てたり、予測したり、工夫したりして創り出す力
 - ・伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力
- ◆学びに向かう力、人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)
 - ・身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
 - ・身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度
 - ・自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって学んだり生活したりしようとする態度

(3) 資質・能力を育む学習過程のあり方

- 生活科における資質・能力を育む教育課程は、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いを持ち、そのための具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わる中で感じたり考えたりしたことを



小学校 生活

表現したり、行為したりしていくプロセスと考えることができる。このプロセスの中で体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていくことが重要である。

(4) 生活科の評価の観点

＜現行＞ 評価の観点	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分について の気づき
＜次期＞ 評価の観点 (案)	身近な環境や自分について の気づき及び 生活上必要な習慣や技能	身近な環境や自分について の思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度

3 アクティブ・ラーニングの視点による生活科の授業改善

- 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の3つの視点が相互にかかわり合った授業改善を進める。

「深い学び」の視点

- ・「深い学び」とは、子供たちが習得・活用・探求を見通した学習過程の中で見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる学びである。
- ・生活科の特質をふまえた見方・考え方を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し、関係的な気づきを獲得するなどの「深い学び」を実現することが求められる。低学年らしい瑞々しい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連づけて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりが求められる。

「対話的な学び」の視点

- ・「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通して、自らの考えを広げ深める学びである。
- ・生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたい。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれ、関係が明らかになったりすることが考えられる。

「主体的な学び」の視点

- ・「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。
- ・小学校低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しく、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行うなかで、自らの学習活動を振り返る。活動や体験したことを言葉によって振り返ることで、無自覚な気づきが自覚的になったり、一つ一つの気づきが関連付いたりする。それらに加えて、振り返ることで自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付いていく。
- ・学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうとする子どもの姿を生み出す。こうした好ましいサイクルこそが、次の学びにつなげる安定的で持続的な「学びに向かう力」を育成するものとして期待できる。

4 教育課程全体における生活科の役割

- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続という視点からのカリキュラム・マネジメントに加え、各学校における小学校低学年の学習と中学年以降の学習という視点からのカリキュラム・マネジメントという視点も重要である。

